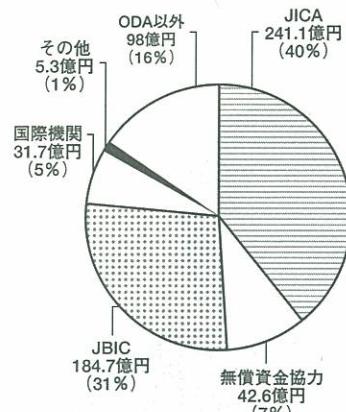
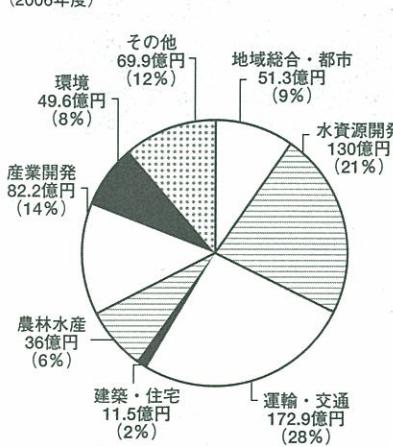


# 開発コンサルティング企業

●資金出所別の受注額と比率  
(2006年度)



●サブセクターごとの実績額と比率  
(2006年度)



出典：「海外コンサルティング業務等受注実績調査」  
〔社〕国際建設技術協会

開発コンサルタントは、主に民間の開発コンサルティング企業に所属しているか、もしくは個人コンサルタントとしてODAの現場で活躍している。その仕事には重い責任が伴うが、その分、とてもやりがいのある仕事だと言える。

左のグラフは、開発コンサルタント企業88社を対象として行った調査結果の一部だ。開発コンサルタント業界全体の資金別・分野別の受注を示しておき、これを見ればおおまかな市場規模や分野のイメージなどがつかめるだろう。コンサルタント業界をもっと詳しく

## 即戦力が求められる業界

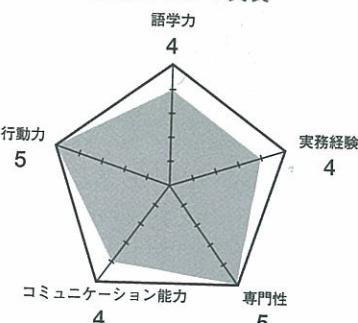
知りたい人は、下記、「海外コンサルティング企業協会（ECFA）」に問い合わせてみてほしい。

開発コンサルタントになりたいと考える場合、民間の開発コンサルタント会社に就職することは、一つの方法だ

ろう。しかし現在、日本にあるコンサルタント会社は約200社と少ない。その上、すべての会社が定期的に採用を行っているわけではない。多くの開発コンサルタント会社では、『即戦力』を期待して採用しているため、中途採用がほとんどで、大学院卒のエンジニアを除き、新卒採用は非常に少ないのが実情だ。新卒採用で入社できるのは、年数十人程度といわれている。

また、開発コンサルタント会社に入社してからも、最初は先輩のアシスタ

●求められる資質



●開発コンサルティング企業を知る3つのキーワード

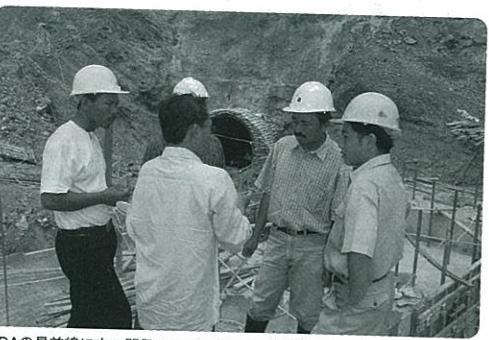
- 1 国際協力のプロジェクトを現場で支える「縁の下の力持ち」
- 2 高い技術や専門性を持ったプロフェッショナル集団
- 3 就職では実務経験を重視

日本をはじめ、国際機関や欧米などの援助国が実施する開発援助の最前線で働いているのが「開発コンサルタント」と呼ばれる人たちだ。

日本政府は、開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上を目指して、政府開発援助（ODA）を実施している。ODAは、政府系の実施機関やNGO、大学や地方自治体など、さまざまな役割を持つプレイヤーによって実施されている。その一つに開発コンサルタントがあり、その役割を簡単に説明すると次のようになる。

ODAのプロジェクトは、通常、途上国政府から協力の要請が日本政府に上げられるところから始まる。要請を受けると、国際協力機構（JICA）や国際協力銀行（JBIC）などODA実施機関、外務省や財務省などの関係省庁が、具体的なプロジェクトを審査・探査していく。

その案件を落札した開発コンサルティング企業は、「効果的な支援を行うためにはどのようにすべきか」を考えながら、プロジェクトの基礎となるプランを作成していく。そして途上国の政府機関や地元企業、地域住民などと協議を重ねながら、プロジェクトの実査・探査していく。



ODAの最前線に立つ開発コンサルタント（提供：ECFA）

つまり開発コンサルタントは、「専門技術・経験・知識をもとに、ODAの最前線で、プロジェクトを成功に導く」という重要な役割を担っている。それだけに、開発コンサルタントには高い専門性が求められる。その分野は、電力・資源・エネルギー・運輸・交通・水資源開発・上下水道・農林水産・鉱工業・地域開発・都市開発・保健・医療・教育・経済行政など多岐にわたる。また近年、社会の多様化に伴い、求められる専門性は多様化・高度化していることから、日ごろから、自分自身をスキルアップしていくための努力は欠かせない。

●ODAの仕組み

